

# 翔

TOBU

NO. 48 20 XII, 1984

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYODANKAI

大杉谷にてムモンアカシジミを採集

松田俊郎

1984年8月9日 晴 私はムモンアカシジミを求めて、大杉谷（石川郡白峰村大杉谷）の林道を車を走らせていた。時々、車を止めては辺りの木をつなぎ竿で叩くのだが何もでない、オニヤンマが林道を行ったり来たりしている。大杉谷はギラギラとした太陽が照りつけ、まだ夏の盛りという風情があった。少し車を走らせ、また車を止めて木を叩いていると、小さい白っぽい蝶が飛び出した。何かなと思いながら掬ってみると、飛び古したミズイロオナガシジミであった。それから3時間余りここと思う所を捜してみるのだが、蝶はほとんど飛ばないし、だんだん日暮れは近づいてくるし（今日は午後から出たので、もう日暮れなのだ。）もうそろそろ帰ろうかと思っていた頃であった。車を止めて車外に出た時、鮮やかな橙色をした蝶が目に入った。私は一瞬アカシジミかと思った。そして、目と鼻の先にいるその蝶の羽裏の模様を見て、私は胸の高鳴るのを覚えた。それは、ムモンアカシジミの交尾している雌雄であった。ムモンアカシジミはやっぱりいたのである！

ところで、後で知ったのだがムモンアカシジミが県内で再確認されたのは、実に26年ぶりのことだそうである。これまでになぜ再発見できなかったのであろうか。まず第1に考えられるのは、ムモンアカシジミの分布が、大変局地的であるということである。（この局地的であるということは、ムモンアカシジミの独特な食性に起因しているらしい。）第2に発生時期の問題である。8月9日に採集した個体の新鮮度からみて、大杉谷におけるムモンアカシジミの発生は、7月下旬から8月上旬とおもわれる。雌は、8月に入ってから羽化すると考えた方がよさそうである。

さて7月下旬から8月上旬というと、普通に考えればゼフィルスの成虫採集には遅すぎる。それでは採卵はというと、8月というとまだ採卵には早すぎてあまり気乗りがしない。つまりムモンアカシジミの成虫の時期は、他のゼフィルスの成虫採集の時期と採卵期との間にあり、我々の行動からすれば空白になっていたのではないかと思うのである。

最後にムモンアカシジミについて、私の気づいたことを1つあげておきたい。それはムモンアカシジミを捜そうと思えば、アリを捜すのが得策だということである。（このアリは、クサアリモドキというアリらしい。茶色っぽい小さなアリ

である。) ムモンアカシジミの発生する木には、必ずアリがいてアブラムシ(またはカイガラムシ)がいる。ただし、たかがアリくらいと思うのだが、実際に捜してみるとアリが行列をつくっている木というのは、なかなかみつからないものである。アリは、秋かなり遅くまで活動しているので、ムモンアカシジミを採卵する際にも、この方法は有効と思われる。

データー	種名	ムモンアカシジミ	5♂5♀
	採集年月日	1984. 8. 9	
	発生木	ミズナラ	

---

ムモンアカシジミの記録

---

松井正人

---

松田俊郎氏によって石川県のムモンアカシジミが26年ぶりに発見され、これが刺激となって下記の場所でもムモンアカシジミを確認したので報告する。

1 尾口村目附谷

林道脇の急峻な崖からミズナラの大木が立っていて、木を叩くと1ex飛び出した。あまりに急な崖に立っているミズナラなので、アリが上がっているかは確認できなかった。

1984年8月12日 1ex 石川県尾口村目附谷

2 白峰村百合谷

林道脇の平坦な所に、さほど大きくないミズナラが割りとまとまってあり、枝に止まっている本種を発見した。数本のミズナラにアリが上がっていて、この付近より新鮮な個体がたくさん見られた。

1984年8月12日 5♂6♀ 石川県白峰村目附谷

3 富山県有峰湖

ダムを渡って10分程歩いた所で、飛んでいる本種を発見、その後ヤマハハコで吸蜜し飛び去った。尾状突起はとれていたがまだ新鮮な個体であった。

1984年9月 2日 1ex 富山県大山町有峰湖左岸

ムモンアカシジミは7月下旬より8月上旬の蝶かと思っていが、なんと9月に入っても新鮮な個体が見られるのには驚いたしだいである。

※参考資料(ムモンアカシジミの記録)

1957年8月17日	1♀	白山湯ノ谷	手塚	(新昆虫Vol.11, NO.3)
1958年7月27日	2♂	白山中宮	水上茂樹	(とっくりばち9号)
1958年7月28日	1♂	白山中宮	近藤征四郎	(とっくりばち9号)

昭和59年9月30日(日)、金子・野中・中西氏と石川県白峰村大杉谷にてムモンアカシジミの採卵を行なった際、クリの木からムモンアカシジミを採卵したので報告する。

このクリの木は、ムモンアカシジミの発生しているミズナラのすぐ近く(約5m位)にあった木で、アリが活動していたのでもしやと思い捜してみたところ、3卵を得る事ができた。ムモンアカシジミの産卵は、アリとアブラムシが寄生している樹木であればかなり広範囲に選択しているということであり、ブナ科に限らずカラマツやカエデなどからも産卵が確認されているそうである(注-1)。このクリの木でフ化した幼虫が、本当にクリの葉を食べるのか私にはわからないが、興味のあるところである。

ムモンアカシジミの生態は、謎に満ちているという話しであり(注-2)上記の問題と合わせてムモンアカシジミの生態観察が望まれる。

(注-1) 信濃の蝶 III(シジミチョウ科・ウラギンシジミ科)

(注-2) 原色日本昆虫生態図鑑 III(チョウ編)

これは1984年8月11日(土)、石川県白峰村大杉谷にて行なわれた蝶談会によるムモンアカシジミ採集の記録である。

8月9日会員の松田俊郎氏が大杉谷にてムモンアカシジミを採集した。これは26年ぶりの再発見、しかも新産地、さらに成虫採集といったビッグニュースの要素を総て兼ね備えており、近年稀にみる大発見であった。これを物語るがごとくこのニュースは、嵯峨井氏をキーステーションにまたたく間に伝わり、わずか2日後の11日に大採集会の運びとなった。10日になってメンバー間で綿密な計画が立てられ、11日にはまず早起隊が本隊に先駆けて辺り一帯をくまなく調査し、第2、第3の発生地を捜す事、本隊には写真班が同行し、できるだけ多くの写真を撮ること、できれば交尾写真を撮る事となった。

11日、早起隊2名は金沢を7時に出発し、8時より現地にて捜査を始め、まず松田ポイントよりムモンアカシジミの棲息を確認すると、よだれをこらえつつ第2、第3の発生地捜しに取り掛かった。ところが陽が昇るにつれ大変な暑さとなり、水筒はあっという間に空になってしまったが、沢水を水筒に補充しながら、第2、第3、第4の発生地を捜し出した。本隊が到着したのは暑さも盛りの昼下がりで、先発隊がやや浮気心を起こした頃であった。本隊はまず1番下のポイントで採集し第2ポイントへと移った。第2ポイントで枝を叩くと、

ちょうど交尾中のムモンアカシジミが、下の方へ飛んで(落ちて)止まったので、早速写真を撮ろうとせまったのだが、ちょっと足場が悪く近寄れない。そこで止まっている枝をグイとこちらの方へひっぱりよせ、アップの写真をパチパチと撮った。交尾中のムモンアカシジミは、たしょう枝が揺れてもビクとしなかった。第3ポイントでは全く蝶が見当たらず皆でワイワイやっている所へ、気まぐれ隊1名がやってきた。なんともはやムモンアカシジミの魅力に取り付かれてしまい、忙しくて寝る暇も無いというのに来てしまったとか。気まぐれ隊が加わり写真班が抜け第4ポイントへと移るが、第4ポイントの手前で林道工事が始まっていて車での通行は不可となったので、皆手に手につなぎ竿を持って、異様な目付きで見る工事人夫のおっさんをしり目にイソイソと第4ポイントへと急いだ。午前中あれほどたくさんいたムモンアカシジミが今は全くいない、どうしたことか、林立するつなぎ竿に恐れをなしたのだろうか。結局第3、第4ポイントでは午後採集できなかった。

本日の記録をまとめると、参加者は嵯峨井、竹谷、野中親子、松井、松田、吉村兄弟の8人で、4ヶ所においてムモンアカシジミを採集し、数本の発生木らしきミズナラを確認した。これらの標高は700~900mであった。

なお 採集 16exs 目撃多数 であった。

---

#### ムモンアカシジミの生態に関する一文献の紹介

---

嵯峨井 淳郎

1984年盛夏は、時ならぬムモンアカシジミ旋風で蝶談会内外においてとかく話題が沸騰し、実に快挙であった。これはひとえに松田俊郎氏の功績によるものが大である。その後、採卵軍団により採卵が試みられ、来春の楽しみが又一つ増えて楽しいことである。

さて、成虫が沢山得られ、更に卵が得られたとなれば「野外の生態は？」ということになるが、手許に青森県のものではあるが、卵、幼虫さらに成虫に至るまでの総てを網羅した生態観察記録があるので紹介する。

#### 津軽地方におけるムモンアカシジミの生態'80

ちょうちょうNO.50 VOL5. NO.2 1982 元元社刊

著者は佐藤周二・山内博尚の両氏で、越冬卵・幼虫の生態・アリとのかかわりあい・蛹化の場所・羽化・成虫の習性・卵の天適という構成で著述されている。観察場所は、青森県津軽郡岩木町・鳥海山山麓。実に6ヶ月(延60日以上)間に及ぶ観察の集大成で、「あとがき」にもあるように、疑問点として第3の食物がありそうで、それにはアリの生態研究をなぞりにしては総合的解決は無いと結んでいる。シジミ屋さん必見の小冊子。

その他身近な文献として次のものが参考になると思われるので付記しておく。

- 福田晴夫・他(1983) 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ) 保育社  
 猪又敏夫 (1974) 初夏の雑木林で…(Ⅲ) 月刊むし(41):4~7  
 紀藤典夫 (1977) ムモンアカシジミの蛹化例 昆虫と自然VOL12.

NO.13:34~35

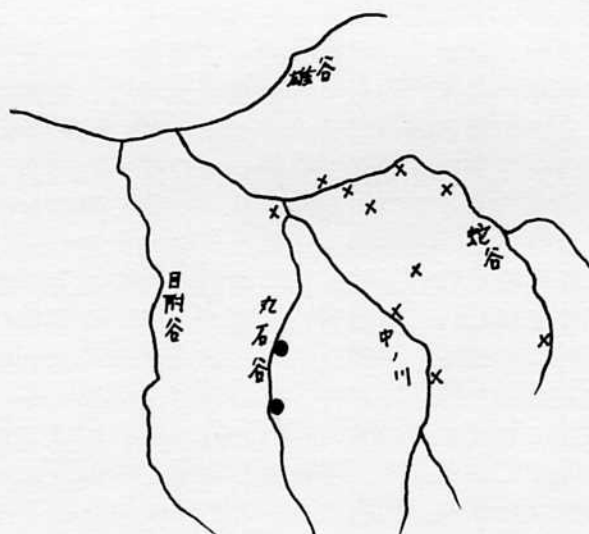
—— 白山丸石谷にてアサマジミを採集 ——

野中 勝、中西重雄、松井正人 ——

石川県のアサマジミは、尾添水系の蛇谷、中ノ川、丸石谷にて棲息が確認されており、下流域ではナンテンハギが、蛇谷、中ノ川の上流域ではイワオウギが食草となっている(1)。今回、丸石谷にてイワオウギ食の産地を確認できたので報告する。採集地点は、標高1200m付近の河原と、1500m付近の小尾根が沢へ張り出した台地状の地形の所で、イワオウギはその間に連続してしているにもかかわらず、幼虫は上記2箇所のみで認められ、数も少なかった。下に各人の飼育結果を示す。

調査日	1983年 6月12日		
MN	10幼	5♂5♀	6月27~29日羽化
SN	2幼	1♂1♀	
MM	2幼	行方不知	

③幼虫は3令と終令であった。



- × 既知産地 (1)
- 今回発見された産地

アサマジミ分布図

文献 (1) 翔 NO.4 アサマジミ特集

富山県内では記録の少ない(1)オナガシジミを西礪波郡福光町にて採集しているので報告する。1984年7月14日、クロシジミを求めて福光町刀利ダム付近を捜していたところ、ヒメジョオンの花に静止しているオナガシジミを発見した。

近くには多数のクルミの木があるので、クルミとまわりの木とゼフ網で叩いてみたところ、無数のオナガシジミが飛び出した。

オナガシジミはすぐにまた、葉上に止まるので採集し易かった。結局5 exsのみを採集したが、個体はほぼ完品だった。オナガシジミは飼育しても成長が遅いことから、やや他のゼフィルスより発生が遅いのではないかと思われる。

オナガシジミはクルミのあるやや山手であれば、棲息していることが金沢市内でも確認されているので、富山県内にも広く分布しているのではないかと思われる。

参考文献 (1) 富山県の昆虫 (1979) P.302 オナガシジミ

昭和59年夏、7月20日前期末試験が終了し、これで2年前期の関門がやっと終わったという安心感と共に夏期休暇が始まった。ところが実際帰沢したのは、7月25日昼過ぎであった。21日から24日の4日間、我が農学部で最も嫌な授業農芸化学実習があったので帰沢したくても出来なかったのである。

24日実習を終え下宿へ荷物を取りに帰り、8時過ぎ小田急線で小田原へ向かった。戦後間もない頃から昭和40年代前半にかけての国鉄全盛時代、東海道本線は長距離列車の宝庫だった。しかし現在残っているのは、340M、345M 東京～大垣間で、この普通列車が寝台特急ブルートレインを除いての唯一の列車である。この列車は165系直流型急行電車であるので、勿論グリーン車の連結もある。いわゆる湘南電車である。この列車に小田原から乗車し、翌朝大垣に着いた。大垣から京都行きの各駅に乗り米原でおり、米原から敦賀までまたまた各駅に乗った。別に金がなかったわけではない。事実急行能登で上野から金沢へ信越線経由で帰った方がずっと安いのである。以前父より、昔学生時代に2日間かけて北海道から各駅のみで帰った話を聞いていたので、自分も挑戦したのである。しかし各駅は体力との勝負、前日までの実習がたたりついに敦賀でダウン直前となり、特急雷鳥に乗り換えてしまった。それから帰宅して数日たって、北海道旅行へ飛び立った。北海道では良い成果が全くといていいほどなく、しいて言えばミヤマクワガタ1♀、ノコギリカミキリ1 exなどを採集しただけであった。この夏は甲虫類に狙いを絞った訳ではないが甲虫類の成績が良かった。この2匹のみでこのような大きな口をたたける訳ではない。これから悪戦苦闘のバイト採集記がはじまるのである。

北海道旅行から帰ってしばらくブラブラしていたが、家にいても母からガミガミ言われ金も底をつき、おもしろくない毎日が続くばかりなので、思い切ってバイトをやろうと思ったのである。しかし、どうせやるなら金が儲かり有意義でしかも自分の持っている技術、知識、体力を生かしてやろうと、ヒンクラ氏(兄貴)、諸道氏、松井氏と会員諸氏が金儲けをしたことのある(株)国土開発センターへ、松井氏の紹介でバイトへ行った。ところがバイトの内容は実際考えていたよりハンパでなく、きついものであった。小黒部谷へ宇奈月温泉から道路をつける目的で建設省から委託された測量調査で、観測準備から観測までの調査である。初日には金沢を出発し樺平の猿飛山荘に着くだけであったが、国土開発での荷物積み、宇奈月温泉での荷物の積み替え、樺平での積み下ろしと大量の荷を相手に格闘した。宇奈月温泉から以前乗ったことのある黒部峡谷鉄道に乗ったが、自分も初めての関西電力専用工事作業用夫列車で、5輛ほどの無蓋貨車と3輛ほどの使い古した旅客客車であった。夜にはたらふく高いビール(800円位)を飲ませてもらい、いい気分布団に入った。翌日から始まる辛いバイト内容も知らずぐっすり眠った。翌日は40Kgの荷物を担ぎ樺平を6:00に出発し、祖母谷へ向かった。40Kgと言っても会員の諸氏の方にはどの程度のものか分からない方がいると思うので、実際に起こった事件から一つ。40Kgの荷物を積んだショイコの背中にあたる縦の棒が、180°から170°位まで背中と反対側に曲がったのである。祖母谷から廃道寸前の唐松岳登山道へ。この道はその昔メインストリートであったらしく、道際の木に新しいもので昭和39年とか1967年とかいった刻まれた文字が目に入る。登山道にはコケが張り詰め、非常に良く滑った。目指す餓鬼の田んぼへ着いたとたん、何も出来ないくらいに疲れが出た。餓鬼の田んぼはトンボに関心のある方で体力に自信のある方は、是非一度行かれたら良いと思う。高山系のトンボで大型のものが棲息しており、筆者の目撃しただけでもマルタンヤンマ、ルリボシヤンマはいるようであった。この日の仕事は三角点を発見し、基準点の選点が目的であったが三角点がなかなか見付からず、結局三角点捜しとその回りの伐採で終わった。翌日基準点を作り今回の観測に重要なポイントである奥鐘山山頂への道作りが始まった。伐採もしてない山の中をトボトボ歩き、荷物運搬が自分の仕事の割り当てであるので歩いてはみたものの、ショイコが木にひっかかりたり土が崩れ5m転落したりした。奥鐘山の山頂に着いた時には、「もうこんなバイトはイヤ」と思ったが、金が欲しいと思っただけひたすらがんばった。奥鐘山は自分たちが付けた道の反対側は絶壁で、ロッククライミングをする人が年に100人位いるそうで、山頂にはビバーク用のグランドシート1個と缶ビールの空缶が20個あまり放置されていた。この山頂に我々が運んだ機材は、測量ポール、セメント20Kg、砂10Kg、基準点用のコン柱1本であった。コン柱は10×10×70cm位のもので20~25Kgあり、ザックには入れて運んだものの肩に食い込み、肩がへこむくらいの重さであった。山頂に通じる道の終点付近は平均30~40°位、最大70°位のバーンで急坂と呼ぶに最もふさわしいくらいであった。この山頂付近で我々の回りを飛び回るコガネムシらしきものが数十匹あり、叩き落としてみるとセンチコ

ガネであった。この他クロアゲハやキアゲハなど平地で普通種と呼ばれるアゲハ類のボロが、3～5匹気流に乗って飛び回った。翌日もテント場からこの山頂へ向かったが、前日と同様の種のものが確認できた。

国土開発の人もさすが疲れたらしく、次の週改めてアタックすることとなり最終日には樺平の駅前の絶壁を登ってみることとなったが、ロープが足りず30分位で帰沢することとなった。帰沢したのはいいものの皮膚が弱い筆者は、これは遺伝の影響であるがかぶれに悩み、ついに医者通いになった。医者の注射が効いたのか2日あまりで発疹がひいたので、また黒部へアタックとなった。黒部峡谷に着いて樺平の駅前の絶壁に観測用のポールを立て、翌日竹原へ観測ポイントの設置に向かった。新しいテント場には水場がなく樺平から水を運ぶ事になり、荷物負担は前以上のものとなった。ここで筆者はまたまた初体験をするはめとなった。それは峡谷鉄道の軌道敷内を歩くことであった。夏ではあるがトンネルの中は冷えていて、冷蔵庫の中に首を突っ込んだ感覚であった。竹原は関西電力の鉄塔管理道路があり、途中までは登山道以上の良い道があった。しかし天候が悪くテントはそのままにして、猿飛山荘に引き返すこととなる。翌日竹原へは向かわず、剣岳登山道へ向かう途中のポイントを設置する為ポイントへ向かった。ここで筆者は新しい知識を得る。知識と言っても工業技術に驚嘆したのである。峡谷鉄道は宇奈月から樺平までであるが、もともとこの鉄道は関西電力のものであり、樺平から黒部第4地下発電所へ今も関西電力の上部軌道と呼ばれる高熱の温泉が噴き出す中を耐熱装備された貨車が通っている。この鉄道は関西電力の持ち物であるが、こちらは建設省の委託を笠にきてこの鉄道の設備を使わせてもらった。峡谷鉄道樺平駅と黒4地下発電所の勾配が急なため、樺平駅の奥に貨車一輛がすべて収まる大きなエレベーターを設け、200m余り上部にあげてその地点で貨車を再度連結し、黒4へ貨車を送っているのである。このエレベーターに筆者たちも乗せてもらったのである。この日はコン柱埋めで終わり翌日竹原へ向かった。テント場から竹原へ向かう道の伐採をしていると、前方にわけのわからないブーヒーと鳴く動物を発見し、よく見ると天然記念物のカモシカであった。筆者はこの竹原への山道で合わせて3ヶ所ハチに刺されてしまい、思うように行動がとれなくなった。しかし翌日の帰り、このハチに刺されたため足がうまく使えず、足を滑らせ木に手をついた時木からボトッと落ちる虫があった。カミキリらしいがよく分からず、採集してみるとヒゲナガカミキリ 1ペア プラス 1♀であり、思わぬ種を採集してしまった。しかし採集物をいれるものがなく、測量機材のケースに入れ、猿飛山荘へ帰った。すぐにお湯で殺し金沢へ持って帰る事となる。翌日痛い足を引きずりながら、駅前の絶壁の観測用ミラー(光波測量用)を取り外していると、トランシーバーから餓鬼へ荷物を取りにくるよう連絡がはいった。筆者は嫌々ながら餓鬼へ向かった。しかしここでまた思わぬ出来事にあう。唐松岳登山道でパープル色のセンチコガネが手に入った。しめて3匹のセンチコガネが手に入った事となる。猿飛山荘へ戻ったあと帰沢する事になる。黒部峡谷はセンチコガネが多いのか、駅前でも1匹採集した。



今回の採集場所は奥鐘山、樺平駅前、竹原とバラバラではあるが、自然の宝庫と呼ぶにはふさわしい甲虫の採集地であった。最後に今回の採集品を列記しておく。

<採集データ>

昭和59年 8月29日	センチコガネ	1ex	奥鐘山山頂
9月7日	ヒゲナガカミキリ	1♂2♀	黒部峡谷竹原
"	センチコガネ	2exs	唐松岳登山道
"	センチコガネ	1ex	樺平駅前

<目撃データ>

昭和59年 8月29日	クロアゲハ	1ex	奥鐘山山頂
"	キアゲハ	1ex	奥鐘山山頂
9月7日	アオカナブン		樺平駅前

採卵記録票に付いて

野 中 勝

オサムシマップという名の会誌が、東日本オサムシ研究会というところから出ている。内容は大変素晴らしく、勉強になることがたくさんあるが、中でも採卵記録票といって各人が採集データを書き込んだものをそのまま縮小コピーして載せるといふアイデアは最高だと思った。さっそく我百万石蝶談会でもゼフィルスの採卵記録票という物真似をしてみたらと思い、松井、中西両氏に相談したところ賛意を得られた。そこで12月の例会で説明をすると共に用紙を配付した次第である。原則として以下のように記入することにしたい。

- 1) 県内外を問わず、ゼフィルスの採卵記録を日付順に番号を付けて記入する。(1984年秋のシーズンより)
- 2) 1日に2ヶ所以上まわった時は別々に記入し、数人で行った場合も各人がそれぞれ記録する。その時は同行者を明記する。
- 3) 石川県内のものについては、国土地理院発行の2.5万分の1地形図の名を記す。
- 4) 記録は、「アイノ 15 ミズナラ」の如くし、余白にはできるだけくだらないことを書いてうめる。
- 5) 5つ(つまり1段)うまったら松井氏に届け(or取りにこさせ)できるだけ速報性を保てる様にする。

ただしここに書いたのはあくまでも一応の原則であり、あまり深刻に考える必要はないと思う。例えばミヤマカラスシジミの採卵や、オオムラサキの採卵記録は大歓迎だし、オサムシやカミキリの記録が出てきても良いと思う。もちろんカラブリ記録も貴重なので是非載せて頂きたい。順調にいったら冬場だけでなく、成虫シーズンまで広げることも考えたい。

この物真似が発展するもしないもあなた次第である。さあ、どんどん好き勝手なことを書いてちょうダイ。

採卵記録票

採集者 NO.	野中 勝 (1)	野中 勝 (2)	野中 勝 (3)	野中 勝 (4)	野中 勝 (5)
場所	岩槻 菅野上木田	白山村 大杉谷	白山村 シカ木	金沢市 西丸山	金沢市 西丸山
2.5万地図名		加賀市 瀬	加賀市 瀬	福光	福光
年・月・日	1984. 12. 27	1984. 12. 30	1984. 12. 30	1984. 12. 7	1984. 12. 10
種名	アサギ 20) 2277 Faw 11	アサギ 29 Faw 2) 2277 2270 2	アサギ 19 277 2770 6	アサギ 11 277 2770 32	アサギ 3 277 2770 21
食記	アサギ 5 277 2770 5 277 2770 5 277 2770 5 277 2770 5 277 2770 5 277 2770 5 277	アサギは初見の アサギ 2770 277 2770 2770 277 2770 2770 277 2770 2770 277 2770 2770 277 2770 2770 277	大杉谷の標本は2枚 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	約300の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	前回の採卵結果から アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277

採卵記録票

採集者 NO.	野中 勝 (6)	野中 勝 (7)	野中 勝 (8)	野中 勝 (9)	野中 勝 (10)
場所	尾口村 史石谷	白山村 シカ木	金沢市 菊水	福光 西丸山	白山村 シカ木
2.5万地図名	白山 新田湯	加賀市 瀬	福光	福光	加賀市 瀬
年・月・日	1984. 12. 14	1984. 12. 14	1984. 12. 21	1984. 12. 4	1984. 12. 11
種名	アサギ 19 277 2770 6 277	アサギ 30 277 2770 6 277	アサギ 0 2770 6 277	アサギ 32 277 2770 6 277	アサギ 86 277 2770 6 277
食記	中西名と共に出 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	アサギの史石谷の アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	アサギの採卵は最低 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	西丸山の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	白山村の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277

採卵記録票

採集者 NO.	松井正人 1	松井正人 2	松井正人 3	松井正人 4	松井正人 5
場所	金沢市 倉谷	尾口村 一里野	白山村 百合谷	金沢市 親法寺	白山村 栗田
2.5万地図名	西丸山 (20)	市原 (14)	白山 (9)	栗田 (27)	栗田 (24)
年・月・日	1984-9-29	1984-10-20	1984-10-20	1984-11-3	1984-11-3
種名	アサギ 106 277 2770 277	アサギ 79 277 2770 277	アサギ 46 277 2770 277	アサギ 30 277 2770 277	アサギ 30 277 2770 277
食記	アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	雨の中のアサギ アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	栗田の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	栗田の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277

採卵記録票

採集者 NO.	松井正人 6	松井正人 7	松井正人 8	松井正人 9	松井正人 10
場所	金沢市 倉谷	白山 10-1 榎川湯	白山村 大日川	白山村 藤原堂山	白山村 西丸山
2.5万地図名	鶴来 (23)	中宮温泉 (15)	加賀丸山 (8)	北谷 (6)	北谷 (3)
年・月・日	1984-11-5	1984-11-17	1984-11-18	1984-11-23	1984-11-23
種名	アサギ 106 277 2770 277	アサギ 79 277 2770 277	アサギ 46 277 2770 277	アサギ 30 277 2770 277	アサギ 30 277 2770 277
食記	アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	アサギの採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	北谷の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277	北谷の採卵 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277 アサギ 2770 277

採卵記録票

採集者 NO.	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5
場所	金沢市匠王山	金沢市匠王山	石川郡白降村大谷谷	石川郡白降村秋津村道	金沢市菊水
2.5万地図名					
年・月・日	1984.9.22.	1984.9.23	1984.9.30	1984.9.30	1984.10.3.
種名	スズメバチ, ツズミドリ	ツズミドリ, スズメバチ	ムシロ, スズメバチ	ツズミドリ	スズメバチ
数	20個	20個	20個	20個	20個
食樹	山ササ, ツナ	ツナ, ササ	ミナ, ササ	ツナ	山ササ(大木)
食記	波紋状, 小ビリを葉の裏に 山ハハインテグロの根の 行方, ツナ根に1m位の の穴を掘り根の断面 のツナ, 葉の所にツナ いるの正否を確かめようか?	スズメバチ葉の裏に 4cm位の穴にツナを 挿入する。	葉の裏に木に葉を 挿入してツナを 挿入の跡を 4cm位の根の間にツナを 挿入する。	午後2時-3時採卵 ツナの葉は黄色(ツナが 約90% 約2時間)	午後5時

採卵記録票

採集者 NO.	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
場所	石川郡尾口村大谷谷	石川郡白降村秋津村道	金沢市匠王山	石川郡白降村秋津村道	石川郡白降村秋津村道
2.5万地図名					
年・月・日	1984.10.14	1984.10.14	1984.10.18	1984.10.20	1984.11.4
種名	ツズミドリ, スズメバチ	ツズミドリ	ツズミドリ	スズメバチ	スズメバチ
数	20個	42個	12個	130個	約400個
食樹	ツナ, 山ササ	ツナ	ツナ	ツナ	ツナ
食記	大谷谷斜面にツナを 挿入し, 大木の下のツナ 10個採集	斜面にツナを挿入し 採卵後, 秋津村道 にツナを挿入し, 採 卵後, ツナを採集	午後, 大谷谷の斜面 にツナを挿入し, 採 卵後, ツナを採集	秋津村道にツナを 挿入し, 採卵後, ツナ を採集し, 約100個 採集した。	大谷谷斜面にツナを 挿入し, 採卵後, ツナ を採集し, 約400個 採集した。

採卵記録票

採集者 NO.	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15
場所	小松市大山	金沢市匠王山	石川郡能登, 白山町	石川郡能登, 白山町	小松市新井山
2.5万地図名					
年・月・日	84.11.18	1984.11.29	1984.11.30	1984.12.2	1984.12.7
種名	スズメバチ, ツズミドリ	スズメバチ	スズメバチ	スズメバチ	スズメバチ
数	25個	16個	1個	20個	30個
食樹	山ササ, ツナ	ツナ	ツナ	ツナ	ツナ
食記	大谷谷のツナにツナを 挿入し, 採卵後, ツナ を採集した。	直線, 10~15cm位の ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。

採卵記録票

採集者 NO.	No.16	No.17	No.18	No.19	No.19
場所	石川郡白降村秋津村道	石川郡白降村秋津村道	石川郡白降村秋津村道	石川郡白降村秋津村道	金沢市坪野町
2.5万地図名					
年・月・日	1984.12.9	1984.12.16	1984.12.16	1984.12.17	84.12.17
種名	スズメバチ, ツズミドリ	スズメバチ	スズメバチ	スズメバチ	スズメバチ
数	20個	5個	20個	20個	20個
食樹	山ササ	ツナ	ツナ	ツナ	ツナ
食記	日没近く採集のため 99%は採集せず (両葉にツナを挿入)	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。	ツナを挿入し, 採卵 後, ツナを採集した。

— お 知 ら せ —

百万石蝶談会木曾支部長の伊沢国雄氏は、4月より大島国雄と改姓し第3の人生を歩む事となった。今後は大島と呼んでほしいそうです。しかし家族やそば屋の周辺の人々は依然として、「伊沢さん」と呼んでるみたいで…、本人もまだ伊沢のつもりでいるので、そのつもりで……???

<編集後記>

すでに師走になってしまったのに、今年の翔はまだ3号しか出ていなかったのので、「年内中にもっと発行したら」と編集子をつついた所、「原稿はたくさん有るが、卒業実験で忙しくてネ、卒業出来ないと僕困るし、松井さんどうですか？やってくれませんか？」なんちゃって、御鉢がこちらへ回ってきた。「字が下手だから」と逃げたものの、「ワープロというプロがついているでしょ」であった。ワープロで作れば、それはそれは読みやすい見栄えの良い「翔」が出来るであろうが、なんせキーボードでポチポチと1字ずつ打ち込む仕事は大変で、ならいたてだから結構時間がかかる。おまけにワープロで作ると、同じページ数でも結構原稿を食うのでこれまた大変である。こんな大変×大変の思いをしながらグチをこぼさず、会員の為ひいては全虫屋の為に、ポチポチキーボードを打ち続けた健気な編集子に大いに感謝していただきたい。被感謝！被感謝！

目 次

1. 大杉谷にてムモンアカシジミを採集 .....	松田俊郎 (1)
2. ムモンアカシジミの記録 .....	松井正人 (2)
3. ムモンアカシジミをクリから採卵 .....	松田俊郎 (3)
4. 採集会・ムモンアカシジミを尋ねて .....	松井正人 (3)
5. ムモンアカシジミの生態に関する一文献の紹介 ..	嵯峨井淳郎 (4)
6. 白山丸石谷にてアサマシジミを採集 .....	野中勝 (5)
7. 福光町刀利ダムにてオナガシジミを採集 .....	吉村久貴 (6)
8. バイト採集記・黒部峡谷の巻 .....	吉村貴己 (6)
9. 採卵記録票に付いて .....	野中勝 (9)
10. 採卵記録票 .....	(10)

翔 NO. 48

1984年12月20日(木)発行

発行 金沢市大場町東871の15 松井正人方 百万石蝶談会

編集・校正 松井正人